

<福島県知事賞>

先人から学んだ税の在り方

福島県立会津学鳳中学校 三年 野中 律

「律ちゃんは、松平定信って知ってる。」

と、祖母が突然言った。私は、

「もちろん知っているよ。寛政の改革を執り行った人でしょ。厳しすぎて、武士や庶民の不満が高まって辞めさせられたんだよね。」と、歴史の授業で習ったことを思いだして答えた。すると祖母はこう言った。

「そのイメージが強いよね。でも実は、松平定信はとても画期的なことを行ったすごい人なんだよ。」

「えっ。どういうこと。」

松平定信について、厳しく冷酷なイメージを持っていた私はとても驚き、詳しく説明するよう頼んだ。祖母は、私が知らなかった松平定信の一面を話し始めた。

松平定信は、言わずと知れた日本三大改革の一つ、寛政の改革を執り行った人物だ。しかし、彼が日本で初めて「税を国民のために使った」ことを知っているだろうか。現代の日本では、国民から集められた税は、医療や年金、福祉などさまざまなかたちで私たち国民の助けになっている。なんと江戸時代初期頃までは、これはあたりまえのことではなかったのだ。当時、年貢は一方的に政府に納めるもの、というのが常識だったのである。私はその事実に関心された。もし私が江戸時代初期頃にタイムスリップしたら、何のために税を納めているのだ！と怒りたくなってしまおう。そんな当時の常識を覆したのが、そう松平定信である。彼は、「経世済民」をモットーに、年貢を飢饉対策や福祉にあてた。寛政の改革はとても厳しかったことで有名だが、それで得た利益は、飢饉に苦しんでいる国民のためのものだったのだ。私はこの事実を知り、松平定信のイメージが一変した。そんな彼が気に入っていた孔子の言葉がある。「国に九年の貯えなくば不足なりと曰う。国に六年の貯えなくば急なりと曰う。国に三年

の貯えなくば国その国に非ず。」というものだ。たくわえは多ければ多い方がよく、九年分あっても足りないくらいだ、という意味だ。現代にも通ずる言葉だと思う。

最近、消費税が十パーセントに引き上げられた。賛否両論だが、私は賛成だ。先程の孔子の教えにもあるとおり、貯え、つまり税は多い方があとで困らないと考える。

それでも増税などに反対する人がいるのは、政府からの情報がわかりにくいからだと思う。私たちのために使われている税なのに、伝わらないのはもったいない。例えば、集めた税は、何円をこのような目的で使いますよ、というような情報をもっと誰にでも分かりやすく、広く伝えるべきではないか。そうすれば、なんのために税を納めているのか具体的にわかって国民も安心するはずである。

私たちが生まれる前からある税。現在に至るまでの税の在り方の変化を今回知り、税のありがたみを深く実感した。